（当センター事務局が発表資料をもとに作成）

2012 年度の温室効果ガス排出量（確定値）について

△ 2012 年度の総排出量（確定値）は 13 億 4,300 万ﾄﾝ、京都議定書基準年比 6.5%増、前年度比 2.8%増となります。

△ 京都議定書第一約束期間(2008-12 年度)の５カ年平均で 12 億 7,800 万ﾄﾝ、基準年比 1.4%増となります。

△ これから、森林等吸収源（基準年比 3.9%）、京都ﾒｶﾆｽﾞﾑｸﾚｼﾞｯﾄ（基準年比 5.9%）を差し引くと５カ年平均で基準年比 8.4%減、京都議定書目標（基準年比 6%減）を達成します。

△ 京都議定書第一約束期間中の排出量の推移をみると、08 年度後半の金融危機の影響に伴い 09 年度にかけて減少したものの、10 年度以降、景気回復及び東日本大震災を契機とした火力発電増加により３年連続で増加しました。

△ 各部門のエネルギー起源二酸化炭素排出量は以下の通りです。

（単位：百万ﾄﾝ CO2）

―	京都議定書の基準年 【シェア】	2012 年度 （基準年比）　【シェア】
合　計	１，０５９ 【１００％】	１，２０８ (+14.0%)　【100%】
産業部門（工場等）	４８２ 【４５．５％】	４１８ (-13.4%)　【34.6%】
運輸部門（自動車等）	２１７ 【２０．５％】	２２６ (+4.1%)　【18.7%】
業務その他部門 （商業・ｻｰﾋﾞｽ・事業所等）	１６４ 【１５．５％】	２７２ (+65.8%)　【22.6%】
家庭部門	１２７ 【１２．０％】	２０３ (+59.7%)　【16.9%】
ｴﾈﾙｷﾞｰ転換部門 （発電所等）	６７．９ 【６．４％】	８７．８ (+29.4%)　【7.3%】

以上